

# 令和4年度 教育行政点検評価シート

## 《令和3年度の努力目標（取組事業）》

### 教育行政評価委員からの意見まとめ（案）

教育総務課	1ページ
学校教育課（給食センターを含む）	2ページ から 5ページ
生涯学習課	6ページ から 9ページ
公民館	10ページ から 12ページ
教育集会所	13ページ から 18ページ
文化財課	19ページ から 20ページ
上野図書館	21ページ から 22ページ

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
教育総務課	子どもたちが、安心して学べる	1	校区再編事業の推進	上野南部地区小学校再編計画	* 依那古小学校、神戸小学校、比自岐小学校の統合協議を行った。校舎改修工事の設計業務委託及びアスベスト調査を実施し、工事に着手した。	進捗率50%	進捗率50%	7,392	継続	令和5年4月開校に向けて、校舎改修工事、バスルート協議、交流事業などを進め、令和4年度末までに完了する。  【委員】校区が広域となるため、スクールバスの路線や乗降場所等については児童の安全を第一に、保護者や地域の要望に対しても十分配慮したうえで検討していただきたい。 【委員】今後も教育環境の整備に努められたい。 【委員】前年度からの進捗が変わっていませんが、大丈夫でしょうか。延びれば新たな問題も起こります。 【委員】新たに統合される神戸小学校の子どもたちのバスルートを、保護者の意見等を十分に聞き、安全と見守りができる体制づくりの計画を望む。他県の通園バスに保育園児が置き去りにされ、死亡という痛ましい事件がある中、通学バス運行にも十分に安全・見守り・点呼等、確認の計画重視を望む。	○新たに統合される上野南小学校校区が広域となるため、スクールバスの路線や乗降場所等については児童の安全を第一に、保護者や地域の要望に対しても十分配慮したうえで検討されたい。また、通園バスに保育園児が置き去りにされ、死亡するという痛ましい事件がある中、スクールバス運行についても十分に安全面に配慮し、見守り・点呼等、確認の計画重視を望む。  ○計画どおり事業を進められたい。
		2	学校施設整備事業等の推進	緑ヶ丘中学校大規模改造	* 校舎の大規模改造工事(建築主体工事、機械設備工事)を行った。	進捗率80%	進捗率80%	114,617	継続	令和4年度に内部建具工事を実施して、一連の大規模改造工事を完了する。  【委員】今後も教育環境の整備に努められたい。	○今後も教育環境の整備に努められたい。
			城東・上野南中学校武道場吊天井耐震対策	* 吊天井の耐震対策工事を行った。	進捗率100%	進捗率100%	27,705	完了	学校施設長寿命化計画に基づく工事を完了した。  【委員】今後も教育環境の整備に努められたい。	○今後も教育環境の整備に努められたい。	
			阿山中学校空調設備更新	* 老朽化による空調設備の更新を行った。	進捗率100%	進捗率100%	98,456	完了	学校施設長寿命化計画に基づく工事を完了した。  【委員】各校とも空調設備について不備な教室は今後も早急に整備されたい。 【委員】今後も教育環境の整備に努められたい。	○空調設備について不備な教室は今後も早急に整備するなど今後も教育環境の整備に努められたい。	
		3	GIGAスクール構想の推進	GIGA端末保守サポート業務	* 端末運用サポートや年度更新を行った。	進捗率100%	進捗率100%	36,428	継続	各学校でスムーズに活用できるよう令和3年度からヘルプデスク、アップデート等運用サポートを開始した。端末の物損が多くみられ、物損保証で対応した。  【委員】GIGAスクール構想は新たな学び方を目指す重要な課題である。その基盤を支えるシステムのメンテナンスについては常駐の担当者の配置も含めて体制の充実を望む。	○GIGAスクール構想は新たな学び方を目指す重要な課題である。その基盤を支えるシステムのメンテナンスについては常駐の担当者の配置も含めて体制の充実を望む。
			4	修学の支援等	奨学金支給	* 支給要件に合致する申請者に、運用する奨学金を支給した。	伊賀市・同和奨学金の中退者を除く受給率100%	伊賀市・同和奨学金の中退者を除く受給率100%	12,230	継続	伊賀市・同和奨学金の統合への検討を開始している。新制度が定まるまでは現状のまま継続する。  【委員】制度の再検討においては、申請にかかる条件等を考慮していただいたうえで修学の保障につなげていただきたい。
		中学校クラブ遠征参加補助		* 中学校体育大会や文化関係行事参加者の旅費に要する経費を補助を行った。	参加者負担に対する補助割合100%	参加者負担に対する補助割合90%	4,105	継続	現状のまま継続予定であるが、部活動の地域移行の進捗状況とあわせて、補助のあり方を見直していく必要がある。  【委員】伊賀市は公共交通機関の利用が難しい地域であることから、生徒の大会参加の支援はぜひとも継続していただきたい。 【委員】100%補助できたことは評価します。	○100%補助できたことは評価できる。伊賀市は公共交通機関の利用が難しい地域であることから、生徒の大会参加の支援はぜひとも継続されたい。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)	
					令和3年度実績値	令和3年度目標値						
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	1・21 創造的で活力ある学校、地域とともにある学校づくり 創造的で活力ある園づくりの推進	地域とともに学校マニフェスト推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>*各小中学校(園)に学校運営協議会を設置し、家庭や地域と連携し、地域や社会に開かれた学校づくりを推進した。</li> <li>*学校運営協議会の運営により、保護者と地域住民等の学校運営への参画を促し、学校、保護者、地域住民が一体となって心豊かで健やかな子どもたちの育成を図った。</li> <li>*学校支援地域本部事業を推進し、学校と地域が一体となって子どもたちを育て、地域とともにある学校づくりを進めた。</li> </ul>	設置者による評価値 小中学校 83.5点 幼稚園 93.9点	設置者による評価値 小中学校 85.0点 幼稚園 85.0点	13,246	継続	取組に対する一定の評価は得ているものの、今後さらに各学校(園)から情報を積極的に発信し、保護者や地域の理解と協力を求める必要がある。コロナ禍の中、保護者等が集まる機会をなかなか持てない現状であるが、通信やホームページを積極的に活用し、発信していきたい。	【委員】多くの保護者が積極的に学校運営に関わっていると感じているのは好ましい。コロナ禍の制約の中とはいえ、今後も真剣な意見のやり取りを維持してほしい。 【委員】コロナ禍において、地域の方々が学校に集まることができなかったが、今後、徐々に緩和し地域に開かれた学校づくりを目指していただきたい。学校運営協議会組織を活用し、一層、地域が学校をサポートする機運を高められたい。 【委員】学校マニフェストには教職員の就業環境の改善にも言及されていることである。教員の就業環境の改善は喫緊の課題であり、教員の職務範囲の精査と職種間の適切な業務分担などにより、所与の条件の中でできる限りの改善を図られたい。 【委員】コミュニティスクールの各地区での充実がとても大切に思います。	○多くの保護者が積極的に学校運営に関わっていると感じているのは好ましい。コロナ禍の制約の中とはいえ、今後も真剣な意見のやり取りを維持してほしい。 ○コロナ禍において、地域の方々が学校に集まることができなかったが、今後、徐々に緩和し地域に開かれた学校づくりを目指していただきたい。コミュニティスクールの各地区での充実がとても大切であることから、学校運営協議会組織を活用し、一層、地域が学校をサポートする機運を高められたい。 ○学校マニフェストには教職員の就業環境の改善にも言及されていることである。教員の就業環境の改善は喫緊の課題であり、教員の職務範囲の精査と職種間の適切な業務分担などにより、所与の条件の中でできる限りの改善を図られたい。	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>*学力向上推進事業、人権同和教育研究事業、キャリア形成事業の三事業を実施し、各小中学校長が作成する「学校マニフェスト」の実現を図った。</li> </ul>	「人の役に立つ人間になりたい」と思える児童生徒の割合:88.9%	「人の役に立つ人間になりたい」と思える児童生徒の割合:90%						
				<ul style="list-style-type: none"> <li>*各小中学校で学力向上アクションプランを作成し、計画・実行・評価・改善のサイクルを定着に努めた。</li> <li>*中学校1年生で標準学力検査を実施した。</li> <li>*学力向上アドバイザーを各小中学校に派遣した。</li> <li>*学力向上支援事業(市費)を充実させる。</li> <li>*「家庭学習・読書のすすめ」を作成し、各小中学校に配付した。</li> <li>*全国学力・学習状況調査(国費)、みえスタディ・チェック(県費)を実施した。</li> <li>*一人一台端末をはじめICT機器を効果的に活用した授業づくりに取り組んだ。</li> </ul>	全国学力・学習状況調査市内小中学校の平均点の全国比 小学校:100.9 中学校:99.2	全国学力・学習状況調査市内小中学校の平均点の全国比 小学校:105.0 中学校:100.0						9,350
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*部会別教育研究活動の充実を図った。</li> <li>*夏季教育講演会を開催した。</li> <li>*研究指定校研究推進事業の充実を図った。(府中小・成和東小・他)4校</li> <li>*一人一台端末を活用した授業づくりについての教職員研修を実施した。</li> </ul>	研修講座への参加人数参加者数:984人	研修講座への参加人数参加者数:1,500人	21,437	継続	新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン形式で実施した研修講座もあった。経験の少ない若手教員の割合が増加していることから、指導力の向上が課題であり、今後も充実を図りたい。 【委員】端末活用授業に秀でた教員のいる学校、いない学校で差が出ないよう、各教員が同レベルの知識、技術を修得できる研修を望みたい。 【委員】若手教員と短時間勤務の再任用教員の増加によって、教科指導力の低下と教育活動に対する共通理解に温度差が生じるのではないかと懸念する。教職員研修の機会を保障するための勤務体制を考慮いただきたい。 【委員】若手教員の研修を充実されたい。	○端末活用授業に秀でた教員のいる学校、いない学校で差が出ないよう、各教員が同レベルの知識、技術を修得できる研修を望む。 ○若手教員と短時間勤務の再任用教員の増加によって、教科指導力の低下と教育活動に対する共通理解に温度差が生じるのではないかと懸念する。若手教員等への研修を充実されたい。また、教職員研修の機会を保障するための勤務体制を考慮されたい。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*生活体験に即し、興味や欲求を生かした適切な指導</li> </ul>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*確かな学力の形成</li> </ul>											
		2・22	教職員研究研修経費									

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	30 人権・同和教育の積極的な推進及び差別解消に取り組む実践的な人間の育成	人権同和教育推進事業	* 伊賀市人権同和教育基本方針に基づいた研究テーマを設定し、人権・同和教育の研究と実践を行った。 * 幼稚園・小中学校全教職員で学校人権・同和教育部会を組織し、全市的に人権・同和教育の研究と推進を行った。	人権・同和教育の推進(人権教育カリキュラムの見直し)を「十分図れた」「図れた」学校数:29校	人権・同和教育の推進(人権教育カリキュラムの見直し)を「十分図れた」「図れた」学校数:29校	3,141	継続	コロナ禍の中で、中止となる研修会や地区別懇談会があり、参加回数が減少した。児童生徒が関わる人権侵害(差別事象)の現状は、障がいにかかわる差別発言や外国人、性的マイノリティに対する発言等、減少しているものの、依然として多い。今後も地域や家庭、様々な関係機関と連携しながら、取組を進めていく必要がある。	【委員】人権の重視や多様性の理解を唱えていても、実際に事態に直面すると偏見に基づいて判断する人が依然多いことは否めない。今後ともたゆまぬ活動と努力を継続してほしい。 【委員】各校の人権教育カリキュラムは、常に目の前の子どもたちの事実からスタートし、子どもたちの豊かな人権感覚を育むものであって欲しい。	○人権の重視や多様性の理解を唱えていても、実際に事態に直面すると偏見に基づいて判断する人が依然多いことは否めない。今後ともたゆまぬ活動と努力を継続されたい。 ○各校の人権教育カリキュラムは、常に目の前の子どもたちの事実からスタートし、子どもたちの豊かな人権感覚を育むものであって欲しい。
		24 人権・同和教育の推進		学校(園)の教職員の人権のつどい・研修会・地区懇談会等参加回数:3.3回	学校(園)の教職員の人権のつどい・研修会・地区懇談会等参加回数:5回以上					【委員】他市出身の教職員が増えている現状、伊賀市が培ってきた人権同和教育を学ぶ研修の機会には積極的に参加していただきたい。	○他市出身の教職員が増えている現状において、伊賀市が培ってきた人権同和教育を学ぶ研修の機会には積極的に参加されたい。
		4 キャリア教育の推進	キャリア教育推進事業	* 小学校段階からの教育活動全体を通じた組織的・継続的な取組を推進した。(「キャリア・パスポート」の活用) * 各学校における発達段階に応じた教育課程のあり方を研究した。 * 「伊賀市キャリア教育研修会」を開催し、専門家や企業側からみたキャリア教育のあり方を示してもらい、小中連携の意義を再確認し、今後の方向性を示した。 * 「自分発見! 中学生・地域ふれあい事業」において、全中学校で職場体験活動を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止した。その内容を補うものとして、地元の企業からゲストティーチャーを招聘したりして、将来の夢や職業、働くこと等、自分の生き方について考える活動に取り組んだ。	「自分の生き方や進路を深く見つめることが出来た」と回答した生徒の割合:- % ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により職場体験実習を中止したため。	「自分の生き方や進路を深く見つめることが出来た」と回答した生徒の割合:90%	2,410	継続	職場体験活動を中止せざるを得ず、指標結果得られなかった。コロナ禍の中、各校の工夫によって、生き方学習や進路学習を推進した。今後も、児童生徒が自らがキャリアビジョンを持てるようキャリア教育を充実させていく。	【委員】コロナ禍で職場体験ができなかったのは残念だが、地元の職業人や企業から直接実体験を聞くことは子どもにとって貴重な体験だと思う。今後も職場体験とゲストの話を併せて、有意義な企画を増やし、続けてほしい。 【委員】コロナ禍、将来を描きにくいと訴える子どもたちが多く、高等学校でようやく自分探しを始める生徒もいる。義務教育の場と今後の進路先とが連携したキャリア教育も考慮いただきたい。 【委員】職場体験活動は重要に感じます。状況を見ながら再開していくことを望みます。 【委員】キャリア教育はとても重要です。コロナで出来ないと決めつけず、別の方法を模索できないでしょうか。	○職場体験活動は重要であるため、コロナ感染状況を見ながら再開されることを望む。職場体験の代替活動として、地元の職業人や企業から直接実体験を聞くことも子どもにとって貴重な体験である。コロナ禍において別の方法も模索し、有意義な企画を増やし、継続されたい。 ○コロナ禍、将来を描きにくいと訴える子どもたちが多く、高等学校でようやく自分探しを始める生徒もいる。義務教育の場と今後の進路先とが連携したキャリア教育も考慮されたい。
7 生徒指導の充実及び健全な児童生徒の育成	生徒指導推進事業	* 各学校において家庭訪問、巡視・補導、関連機関との連携・対応、捜査活動等の生徒指導活動に取り組むとともに、教育相談体制・生徒指導体制を整備し、教育相談員等と連携しながら問題行動の早期発見・早期の対応や未然防止に取り組んだ。 * スクール・ソーシャル・ワーカーを2人配置し、学校からの要望に基づいて、家庭支援や制度利用支援をおこなった。 * 全小中学校で学級満足度調査(Q-U調査)を2回実施し、児童生徒の個別の状態や学級集団の状態を把握し、個別の指導や学級経営に活用するように努めた。 * 全学校にいじめ問題相談員を配置し、地域においてもいじめ問題に相談できる体制づくりに努めた。	小中学校における問題行動発生件数:22件	小中学校における問題行動発生件数:0件	2,851	継続			関係機関との連携を強化しながら、問題行動への対処にとどまらず、未然防止に向けた取組を進める。	【委員】関係機関等の連携、活用も必要であるが、児童生徒をより深く理解するために、まずは学校での教育相談と保護者との連携を見直していく必要がある。教職員一人一人の教師力の向上を期待する。 【委員】社会状況が複雑化していく中で、現状を的確に把握し適切な対応をお願いしたい。 【委員】社会や家庭の問題に起因する子どもたちの困難を学校で発見することは、職員に過重な責を負わせないと留保を付けてもなお期待されることはまめかれないであろう。近年認知が広がってきた子どもの貧困ヤングケアラーの問題を含めて、問題の態様や困難を抱える子どもの支援体制について多様な学校関係者が認識を共有できるよう、研修機会の充実を図られたい。	○社会状況が複雑化していく中で、現状を的確に把握し適切な対応をされたい。 ○関係機関等の連携、活用も必要であるが、児童生徒をより深く理解するために、まずは学校での教育相談と保護者との連携を見直していく必要がある。教職員一人一人の教師力の向上を期待する。 ○社会や家庭の問題に起因する子どもたちの困難を学校で発見することは、職員に過重な責を負わせないと留保を付けてもなお期待されることはまめかれないであろう。近年認知が広がってきた子どもの貧困ヤングケアラーの問題を含めて、問題の態様や困難を抱える子どもの支援体制について多様な学校関係者が認識を共有できるよう、研修機会の充実を図られたい。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	8・28・29 不登校児童生徒への理解と社会的自立に向けた支援の推進 教育相談の実施 不登校児童生徒の支援	不登校児童生徒支援事業	* 伊賀市教育研究センター(ふれあい教室)で、不登校児童生徒に対する適応指導活動、児童・生徒及び保護者との教育相談活動を実施した。 * 不登校の実態把握、教育相談に関わる教職員研修を実施した。	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合: 82.1%	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合: 100%	3,433	継続	関係機関と連携しながらきめ細かい取組を進めるとともに、教育相談の充実を図る。	【委員】不登校の形態が多様化して、再登校することが必ずしも最善の策とさえ言えないことも理解できる。不登校のまま小学校・中学校(高等学校)を終えた場合、上の学校への進学に関し様々な困難があると思うが、1人でも多く進学につながるサポートに努力を継続してほしい。 【委員】「不登校」には様々な意味がある。児童生徒個々の願いをしっかりと受け止め、心の居場所を保障してやって欲しい。 【委員】社会状況が複雑化していく中で、取り残された児童・生徒がいないような教育環境が必要です。「ふれあい教室」へも行けない児童・生徒をどうするのか。根気強くあたたかい支援をお願いしたい。 【委員】ふれあい教室の更なる充実を期待します。	○不登校の形態が多様化して、再登校することが必ずしも最善の策とさえ言えないことも理解できる。不登校のまま小学校・中学校(高等学校)を終えた場合、上の学校への進学に関し様々な困難があると思うが、一人でも多く進学につながるサポートに努力を継続、充実されたい。 ○「不登校」には様々な意味がある。児童生徒個々の願いをしっかりと受け止め、心の居場所を保障されたい。 ○社会状況が複雑化していく中で、取り残された児童・生徒がいないような教育環境が必要である。「ふれあい教室」へも行けない児童・生徒への対応など、根気強くあたたかい支援をされたい。
		10 子どもたちの安全・安心の確保	教育振興一般経費	* 教育活動サポーターの配置、自転車ヘルメットの配付・「子どもSOSの家」旗及び注意喚起看板等の購入により、児童生徒の安全を確保するように努めた。	登下校中の小中学生の交通事故発生件数:22件	登下校中の小中学生の交通事故発生件数:0件	1,877	継続	児童生徒の安全の確保に向け、今後も関係機関及び地域の協力を得ながら取組を進めていく。	【委員】サポーターの配置はとても重要です。多くの方々の協力を期待します。	○サポーターの配置はとても重要であり、多くの方々の協力を期待する。
		11・26 特別支援教育の充実 個別の支援を要する幼児についての深い理解と実態に即した適切な指導	特別支援教育充実事業	* 教育支援員、特別支援教育支援員を配置し、児童生徒のニーズにあった支援を行う体制を作った。 * 児童生徒の正しい理解のために専門機関による巡回相談を実施し、適切な支援につなげた。	教育支援員・特別支援教育支援員配置:56人	教育支援員・特別支援教育支援員配置:50人	1,937	継続	特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズは、年々多様化している。一人ひとりの多様な課題に応えられるよう、より適切な支援を行うことが今後増々必要である。		
		13 外国人児童生徒に対する教育の充実と多文化共生教育の推進	外国人児童生徒支援事業	* 初期適応指導教室(チャレンジ教室)の運営した。 * 「外国人児童生徒と保護者のための進路ガイダンス」を実施した。 * 日本語指導者研修会の開催した。 * 外国人児童生徒日本語指導補助員の配置した。 * 日本語指導コーディネーターを派遣した。 * 通訳派遣、翻訳支援を実施した。 * 外国人児童生徒の学習支援(漢字検定補助等)を行った。	・日本語指導が必要な外国人生徒の高校進学率:95.2% ・漢字検定外国人児童生徒の受検率60.1%	・日本語指導が必要な外国人生徒の高校進学率:90% ・漢字検定外国人児童生徒の受検率50%	5,794	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、進路ガイダンスは規模を縮小しての実施であったため参加者数は減少した。しかし、外国にルーツを持つ児童生徒の割合は多く、今後も進路保障を見据えた様々な取組が重要だと考えている。	【委員】チャレンジ教室や進学ガイダンスなど長年の努力に敬意を表する。かつて「外国にルーツを持つ児童生徒」であった人たちが伊賀市内で多く社会人となり、親となっているが、そうした先輩たちの体験を子どもたちの勉学・進学・就職サポートに有意義に活かして欲しい。	○チャレンジ教室や進学ガイダンスなど長年の努力に敬意を表する。かつて「外国にルーツを持つ児童生徒」であった人たちが伊賀市内で多く社会人となり、親となっているが、そうした先輩たちの体験を子どもたちの勉学・進学・就職サポートに有意義に活かして欲しい。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)	
					令和3年度実績値	令和3年度目標値						
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	14	外国語教育の推進	英語指導助手招へい経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>* JETプログラム事業におけるALTの各中学校へ派遣した。</li> <li>* 直接任用による外国語活動指導助手を各小学校へ派遣した。</li> <li>* 小学校外国語指導者研修会を実施した。</li> <li>* 「英語力向上プロジェクト」(英語検定補助)を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校1クラスあたりのALT派遣日数:約8.8日</li> <li>・中学3年生における英語検定3級以上合格率38.5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校1クラスあたりのALT派遣日数:約8.2日</li> <li>・中学3年生における英語検定3級以上合格率30%</li> </ul>	2,641	継続	小学校5・6年生の外国語科の実施、中学校の英語教育の充実に向けた課題など、事業のニーズはさらに高まっていると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>【委員】中学生の外国語学習意欲を広範囲に高めるため、授業以外で生徒が関わる市のイベント、交流事業などで外国語に触れ、外国語を学ぶ意欲を促す企画を増やすことが望まれる。</li> <li>【委員】小学校外国語教育については、中学校で学ぶ英語科とつながる英語教育を期待する。</li> <li>【委員】英語科以外に体育科や音楽科などでALTを活用する余地がないか検討されたい。英語を学ぶより英語で学ぶ方が英語力の向上が期待される。</li> <li>【委員】ALTの派遣日数は増えていると思いますが、英検3級の合格率から考えると少し寂しい気がします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の外国語学習意欲を広範囲に高めるため、授業以外で生徒が関わる市のイベント、交流事業などで外国語に触れ、外国語を学ぶ意欲を促す企画を増やすことが望まれる。</li> <li>○小学校外国語教育については、中学校で学ぶ英語科とつながる英語教育を期待する。</li> <li>○英語科以外に体育科や音楽科などでALTを活用する余地がないか検討されたい。英語を学ぶより英語で学ぶ方が英語力の向上が期待される。</li> <li>○ALTの派遣日数は増えているが、英検3級の合格率は思わしくないのではないか。</li> </ul>
		27	教育研究の推進充実	教育研究センター管理運営費	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 教育研究センターの管理運営を行った。</li> <li>・学校教育及び社会教育関係者の研修会等を開催した。</li> <li>・教職員、学校、地域の連携の支援に努めた。</li> </ul>	会議室使用延べ人数:9,485人	会議室使用延べ人数:10,800人	3,640	継続	新型コロナウイルス感染症の影響により、会議室使用人数が減少したが、今後も積極的な運用を促進していきたい。		
給食センター	子どもたちが安心して学べる	20	学校給食の充実	学校給食管理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>* JAなどの物資納入業者と連携し、食材の確保や価格の調整を図りながら地場産品、特に伊賀産を積極的に使用した。また、いがスマイル給食の取り組みでは、児童・生徒に伊賀市の特産品を知ってもらえるよう献立表等でお知らせをしたり、DVDを活用した。</li> <li>* 児童の施設見学、学校を訪れ給食センターの業務を紹介しながら、学校給食を通しての食育を実施した。</li> <li>* 毎月発行する「給食だより」では地元食材を紹介し、伊賀市ホームページには給食の献立盛付表を掲載するなど、家庭に学校給食を知ってもらった。</li> <li>* 調理場から出る食材の不可食部、学校から戻る残食を検量することで、実態を把握した。また、その結果を食育指導に生かし、「食品ロス」等にも触れた。</li> <li>* 児童のリクエストメニューを提供した。</li> </ul>	地場産食材(県内産・伊賀産)使用率(年間平均)3センター平均:33.9%	地場産食材(県内産・伊賀産)使用率(年間平均)3センター平均:30.0%以上	308,091	継続	地場産食材使用率は、目標を超え、さらに向上している。食育については、各学校と連携を取りながらの推進を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>【委員】食足りて礼節を知るの言葉どおり、給食の実施は児童生徒の落ち着いた学校生活につながっている。コロナ禍で施設見学は実現しにくかったと思われるが、調理に携わっていただく人々のことや栄養価を考慮しながら地元食材を活用した給食に感謝をしていただく食育をさらに進め、残食を抑えることにもつなげてほしい。</li> <li>【委員】環境教育の観点からも、食品ロスの減少を今後も努められたい。</li> <li>【委員】地場産業食材の使用に関しては努力が伺えるが、食品ロスと不揃いの食材の使用についての教育・指導はどのようにされているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食足りて礼節を知るの言葉どおり、給食の実施は児童生徒の落ち着いた学校生活につながっている。コロナ禍で施設見学は実現しにくかったと思われるが、調理に携わっていただく人々のことや栄養価を考慮しながら地元食材を活用した給食に感謝をしていただく食育をさらに進め、環境教育の観点からも、食品ロスの減少を今後も努められたい。</li> <li>○地場産業食材の使用に関しては努力が伺えるが、食品ロスと不揃いの食材の使用についての教育・指導はどのようにされているのか。</li> </ul>

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
生涯学習課・公民館	生涯を通じ、活動できる生きがい	1	社会教育の推進 <small>成人式開催経費</small>	令和4年1月9日(日)に新成人を祝う式典を中学校区別(9会場)に開催した。昨年度に引き続き広い会場への変更や来賓招待の代替としてメッセージビデオ放映など、コロナ感染対策のための様々な禁止や条件を付ける等を実施した。	参加率:76.53%	参加率:80%	1,117	継続	民法改正に伴う成年年齢引き下げにより対象者を18歳に変更し、令和5年に限っては3年齢を対象に開催する。  【委員】各会場での工夫・努力が続いていることを評価したい。今後、18歳の式典に変わった場合、20歳の式典の踏襲でなく、18歳にふさわしい内容になるよう十分議論を尽くしてほしい。 【委員】成人式の参加率は増加しているようだが、3年齢対象での開催でかなり数字が減少しないだろうか。	○各会場での工夫・努力が続いていることを評価したい。今後、18歳の式典に変わった場合、20歳の式典の踏襲でなく、18歳にふさわしい内容になるよう十分議論を尽くしてほしい。  ○成人式の参加率は増加しているが、3年齢対象での開催でかなり数字が減少しないだろうか。	
		3	地域づくりの支援 <small>生涯学習推進啓発事業</small>	*上野公民館分館に配置の社会教育推進員を対象に研修等を行った。 *人材育成講座として読み聞かせボランティア入門講座を開催した。 *住民自治協議会等研修会を開催した。	参加者数:320名 (うちオンライン参加者数:39名)	参加者数:350名	78	継続	地域活動の充実を図るため、他地域の情報や地域住民が学習する機会を継続して提供する必要があります。  【委員】各市民センターに配属される推進委員の技量によって、その地域の公民館活動の濃淡が生まれると予想されます。推進委員の育成を望みます。 【委員】各地区の支援員が、地域住民の教室や展覧会、発表会ができるよう支援員の意識向上を望む。地域によっては活動の差異が出ないような年間計画等。地域によっては支援員の人数を調整されるよう望む。	○各市民センターに配属される支援員の技量によって、その地域の公民館活動の濃淡が生まれると予想される。地域住民の教室や展覧会、発表会ができるよう支援員の意識向上、育成を望む。  ○各地区の支援員が、地域によって活動の差異が出ないような年間計画等を立て、地域によっては支援員の人数を調整されるよう望む。	
		4	人権尊重の精神を培い、主体的に行動のできる人づくり <small>教育集会所交流事業</small>	*伊賀市教育集会所小学生交流事業「みんなよっといで!! 6年生」を開催した。 *伊賀市教育集会所中学生交流会を開催した。 *伊賀市教育集会所高校生・青年人権学習交流会を開催した。 *伊賀市教育集会所保護者の部落問題学習会を開催した。	参加者数:286名	参加者数:250名	477	充実	地域を越えて差別を許さない・差別をなくす仲間の輪を構築するために、差別がある限り継続する必要があります。		
部落差別をなくす	人権問題啓発活動の推進	同和教育研究推進事業	*関係機関と連絡調整を図り、人権同和教育推進活動を行う。 *講演会、研修会、研究大会を開催した。	参加者数:11,125人	参加者数:8,500人	4,673	継続	部落差別をはじめとする個別の人権課題解決に向けて、地域住民が自ら学ぶ機会として継続して行う必要がある。			
			(いがまち) ①学校人権同和教育研究会補助等 ②小中学校交流会補助	①12部会の開催回数:60回 ②開催回数:小学校4.5.6年中学校1.2.3年各1回 参加者数:456人	①12部会の開催回数:60回 ②開催回数:小学校4.5.6年中学校1.2.3年各1回 参加者数:350人	①85 ②34		家庭・地域と連携し、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を目指す人権・同和教育を推進する必要がある。			
			(いがまち) *人権パネル展示 *人権図書コーナー設置 *公民館人権講演会	開催回数:5回 参加者:2000人 蔵書数:370冊 開催回数:中止	開催回数:5回 参加者:2800人 蔵書数:370冊 開催回数:1回 参加者数:50人	-	改善 (次頁)				

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
生涯学習課・公民館	部落差別をなくす	8	人権問題啓発活動の推進	同和教育研究推進事業	(阿山) * 人権作文・ポスター展示  * 人権パネル展示  * 人権図書コーナー設置  * 人権同和問題学習講座	開催回数:1回 来館者数:不明 開催回数:10回 来館者数:8,002人 開催回数:1回 蔵書数:210冊 開催回数:中止	開催回数:1回 来館者数:600人 開催回数:12回 来館者数:6,000人 開催回数:1回 蔵書数:210冊 開催回数:4回 参加者数:500人	-	改善	【委員】事業統合後、特に人権意識の学習機会の面で地域による差が出ないよう配慮されたい。	○事業統合後、特に人権意識の学習機会の面で地域による差が出ないよう配慮されたい。
					(大山田) * 人権パネル展示 * 人権図書コーナー設置 * 文化講演会  * サークル団体等人権研修会	開催回数:7回 蔵書数:265冊 開催回数:中止  開催回数:中止	開催回数:10回 蔵書数:265冊 開催回数:1回 参加者数:40人 参加者数:20人	-			
					(青山) * 人権パネル展示  * 人権図書コーナー設置 * 公民館人権研修会	開催回数:9回 参加者数:263人 開催回数:通年 開催回数:中止	開催回数:8回 参加者数:1,500人 開催回数:2回 開催回数:2回 参加者数:110人	-			
生涯学習課・公民館	子どもや若者が、	5	青少年の創造的、主体的活動の進展と健全な育成活動の推進	青少年健全育成事業	* 第14回「輝け！いがっ子フォトコンテスト」を実施し、輝け！いがっ子憲章を周知・啓発した。 * 子どもたちに読書に親しむ機会を提供するとともに、家庭での読書活動の大切さについて啓発し、子どもの読書活動を推進した。 * 伊賀市青少年ネットワークづくり研修会・伊賀地区こどもわかもの育成支援のための支部研修会等を開催した。 * 青少年健全育成推進大会を開催した。 * 伊賀市青少年育成市民連絡会議の活動を補助し、世代間交流、自然体験学習など各地区の特色を生かした事業の実施を支援した。 * 青少年非行防止活動強化月間(7月)、子ども・若者育成支援強調月間(11月)、未成年者喫煙防止キャンペーンとして青少年健全育成市内一斉活動を計画した(コロナで中止)。	青少年健全育成推進大会参加者数:88人	青少年健全育成推進大会参加者数:150人	1,420	改善	【委員】コロナ禍において、青少年健全育成団体の活動が衰退しないように、指導・支援に努められたい。	○コロナ禍において、青少年健全育成団体の活動が衰退しないように、指導・支援に努められたい。
					* 上野児童福祉会連合会に委託し、遊び文化・生活文化・自然環境を考えること等を大切に、よりよい子ども社会構築のための事業を実施した。	開催回数:1回、参加者数:34人	開催回数:7回、参加者数:500人	986			



所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)		指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
				令和3年度実績値	令和3年度目標値							
生涯学習課・公民館	子どもや若者が、健やかに成長する	5 青少年の創造的、主体的活動の進展と健全な育成活動の推進	青少年健全育成事業	(いがまち) ①夏、冬の体験教室 ②小中学生下校時パトロール ③非行防止夏季夜間パトロール	①開催回数:1回 参加者数:26人 (冬は中止) ②開催回数:10回 参加者:26人 ③開催回数:1回 参加者数:40人	開催回数:2回 参加者数:40人 (夏季) 参加者数:80人(冬季) 開催回数:18回 参加者:45人 開催回数:1回 参加者数:50人	-	改善	地域の青少年健全育成について、地域ぐるみで事業を実施できた。今後も引き続き各種団体と連携し取り組みを充実させる。			
				(島ヶ原) ①青少年非行防止パトロール ②非行防止事業 ③体験型学習	①開催回数:10回 参加者数:20人 ②開催回数:1回 参加者:19人 ③開催回数:10回 参加者数:239	開催回数:25回 参加者数:80人 開催回数:1回 参加者数:20人 開催回数:20回 参加者数:500人	-					
				(阿山) ①青少年非行防止パトロール ②人づくり市民会議事業連携	①開催回数:1回 参加者数:6人 ②開催回数:20回 参加者数:不明	開催回数:4回 参加者数:70人 開催回数:18回 参加者数:700人	-					
				(大山田) むらびとづくり推進会議事業連携	開催回数:0回 コロナのため中止	開催回数:6回	-					
				(青山) * 小中学校下校時パトロール * 青山青少年育成会議事業連携	開催回数:5回 開催回数:中止	開催回数:15回 開催回数:11回	-					

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
生涯学習課・公民館	子どもや若者が、健やかに成長する	5 青少年の創造的、主体的活動の進展と健全な育成活動の推進	青少年健全育成事業	* 上野児童福祉会に委託し、郷土の産業や伝統文化・環境など、さまざまな体験を通して、「誇れるふるさと」を学習するための事業を実施した。	開催回数:5回 参加者数:98人	開催回数: 7回 参加者数:140人	67	改善	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった回もあったが、子どもたちに体験をとおしてふるさとを学び、人とつながる機会の提供ができた。今後も子どもたちへの交流や学びの機会の提供に努める。		
				* 3つの放課後子ども教室の活動支援を行い、市内の新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて活動を実施した。(4教室のうち、1教室は令和3年度より開設、1教室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため1年間活動休止) * 伊賀市放課後子どもプラン施策検討委員会を3月に開催した。	教室1回あたりの平均利用児童数(3教室計):10人	教室1回あたりの平均利用児童数(全教室計):80人	1,854	継続	コロナ感染対策を充分取りながら活動して頂いた。放課後子どもプラン施策検討委員会においては、放課後児童クラブとの一体型や連携型の実施について協議頂いた。今後、地域において教室の開設希望がある場合、引き続き支援を行う。	【委員】子ども教室と児童クラブ一体型・連携型実現の努力を評価したい。場所的な問題は重要だと思うが、市行政全体の連携の中で、子どもの視点に立った解決策を追求されたい。	○子ども教室と児童クラブ一体型・連携型実現の努力を評価したい。場所的な問題は重要だと思うが、市行政全体の連携の中で、子どもの視点に立った解決策を追求されたい。
			青少年センター運営経費	* 街頭補導活動(定時補導・随時補導・特別補導・協助力補導)を実施した。 * 電話および面談による青少年相談活動を実施するとともに、その周知に努めた。 * 環境浄化活動とし、コンビニエンスストア・書店・小売店等に、低俗な広告物・有害玩具・有害図書・不良環境の排除等への協力を依頼した。	補導人数:15人	補導人数:10人	638	継続	関係機関や関係団体と連携し、計画的な街頭補導活動と環境浄化活動を実施し、状況に合わせて補導内容の検討・改善を行った。今後も活動の充実を図るとともに、青少年相談窓口の周知に努める。		

所属	施策	努力目標	取組事業名	公民館	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
						令和3年度実績値	令和3年度目標値					
公民館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	生涯学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実	生涯学習推進事業	上野公民館	通年講座(悠々セミナー・ダンスフィットネス・体を使って脳トレEnglish)、歴史・文学講座、地域出前講座、はじめてのリモート講座、定住自立圏連携事業 開催回数:29回 参加者数:570人	開催回数:26回 参加者数:1000人	209	改善	コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら継続して事業を実施する。	【委員】(各公民館共通まとめ) コロナ禍と公民館の廃止によって、各公民館で活動していたサークル活動の衰退が危惧する。発表の場の支援等お願いしたい。 【委員】公民館がなくなることの市民に対する損失は計り知れないものと思います。残念でなりません。	○(各公民館共通) 公民館がなくなることの市民に対する損失は計り知れないものである。公民館の廃止とコロナ禍によって、各公民館で活動していたサークル活動の衰退が危惧される。発表の場の支援等を望む。	
					初めての講師サポート事業 開催回数:10回 参加者数:72人	開催回数:8回 参加者数:140人	0		コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら継続して事業を実施する。			
					親子体験講座 開催回数:4回 参加者数:71人	開催回数:4回 参加者数:100人	31		小学生と保護者を対象に体験学習に取り組めた。			
					千支の春展 参加者数:715人	参加者数:280人	58		歴史のある取り組みであるため、継続して実施する。			
					サークルまつり サークル数:20(中止)	サークル数:21団体	14		コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。			
					公民館サークルの育成 回数:2回	回数:2回	0		サークル活動の場として継続した支援が必要。			
					上野分館活動事業 分館数:22 事業数:189	分館数:22 事業数:200	5,360		完了			上野と青山だけにある分館は、市域全体で新しい生涯学習体制を整えるため廃止。
				いがまち公民館	公民館一般講座 開催回数:32回 参加者数:428人	開催回数:31回 参加者数:660人	188	改善	新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業があり、開催回数や参加人数が減少した。今後は、新しい生涯学習体制を活かし市民のニーズに応じた教室を実施する。			
					公民館子ども講座 開催回数:7回 参加者数:118人	開催回数:9回 参加者数:110人	42					
					読み聞かせ会 開催回数:29回 参加者数:406人	開催回数:30回 参加者数:450人	12					
					やまなみ文化協会育成 -	回数:2回	180					
					やまなみ文化祭 開催回数:1回 参加団体数:9団体	開催回数:1回 参加団体数:12団体	50					
					いがまち展覧会 開催回数:1回 出展者数:263人	開催回数:1回 出展者数:800人	33					
				島ヶ原公民館	健康体操教室・園芸教室・初心者のパソコン教室・彩々教室 開催回数:20回 参加者数:301人	開催回数:24回 参加者数:350人	114	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催できないことが多かったが、生涯学習の場を提供することにより、生き生きとした活動や取り組みが出来ればと考えます。				

所属	施策	努力目標	取組事業名	公民館	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
						令和3年度実績値	令和3年度目標値					
公民館	7	生涯学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実	生涯学習推進事業	島ヶ原公民館	絵本の読み聞かせ教室	開催回数:8回 参加者数:392人	開催回数:20回 参加者数:600人	30	改善	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催回数は少なくなったが、親子が心のふれあいを深めたり、読書の楽しさを知る機会となっています。		
					文化サークルまつり演芸会	中止	開催回数:1回 参加者数:100人	0		新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。		
					文化作品まつり展覧会	中止	開催回数:1回 参加者数:600人	0		新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。		
					公民館サークルの育成	回数:2回	回数:3回	104		新型コロナウイルスの感染拡大防止のため会議やミーティングの回数は少なくなったが、地域の方やサークル協議会の方のご意見を聞きながら充実した活動ができるようサポートしていきたいと思えます。		
				阿山公民館	一般対象講座	開催回数:3回 参加者数:47人	開催回数:6回 参加者数:100人	24		新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業があり、開催回数や参加人数が減少した。今後は、新しい生涯学習体制を活かし市民のニーズに応じた教室を実施する。		
					子ども対象講座	開催回数:10回 参加者数:116人	開催回数:33回 参加者数:400人	98				
					あやま芸能まつり	中止	開催回数:1日 参加者数:450人	0				
					あやま展覧会	開催回数:3日 参加者数:669人	開催回数:3日 参加者数:1,000人	0				
					公民館サークルの育成	-	回数:6回	104				
					読み聞かせ会	開催回数:10回 参加者数:44人	開催回数:24回 参加者数:100人	15				
				大山田公民館	一般対象講座	開催回数:19回 参加者数:244人	開催回数:20回 参加者数:300人	78		新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業があり、開催回数や参加人数が減少した。今後は、新しい生涯学習体制を活かし市民のニーズに応じた教室を実施する。		
					子ども対象講座	開催回数:10回 参加者数:156人	開催回数:10回 参加者数:200人	54				
					リズム運動教室(園児対象)	開催回数:6回 参加者数:192人	開催回数:6回 参加者数:200人	54				
					サークルの育成	-	回数:3回	0				

所属	施策	努力目標	取組事業名	公民館	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)	
						令和3年度実績値	令和3年度目標値						
公民館	7	生涯学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実	生涯学習推進事業	大山田公民館	芸術文化祭(芸能大会)	中止	参加団体数:7団体	0	改善	(前頁)			
					芸術文化祭(展覧会)	中止	出展者数:750人	0					
					読み聞かせ会(図書室)	-	開催回数:24回 参加者数:240人	47					
					読み聞かせ会(大山田小学校)	-	開催回数:30回 参加者数:1,100人						
					読み聞かせ会(子育て支援センター他)	-	開催回数:3回 参加者数:120人						
				出前講座(稚月明作品写真パネル各センター巡回展示)	開催回数:6回 参加者数:50人	開催回数:6回 参加者数:300人	0	新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業があり、開催回数や参加人数が減少した。今後は、新しい生涯学習体制を活かし市民のニーズに応じた教室を実施する。					
				まなびあおやま(一般)講座	開催回数:1回 参加者数:6人	開催回数:15回 参加者数:250人	6						
				まなびあおやま(子ども)講座	開催回数:1回 参加者数:6人	開催回数:6回 参加者数:220人	13						
				図書室公開講座『おはなし広場』	中止	開催回数:4回 参加者数:200人	0						
				地域芸術向上支援事業	開催回数:9回 参加者数:103人	開催回数:4回 参加者数:150人	0						
				青山公民館	地域学習講座	開催回数:1回 参加者数:16人	開催回数:4回 参加者数:300人				0		
					読み聞かせ会(図書室)	開催回数:7回 参加者数:22人	開催回数:12回 参加者数:100人				28		
					文化サークル連協芸能発表会	中止	開催回数:1回 参加者数:400人				0		
					ふるさと美術文化展覧会	開催回数:1回 参加者数:328人	開催回数:1回 参加者数:410人				0		
公民館サークルの育成	回数:3回	回数:3回	0										
青山分館活動事業	分館数:6 事業数:39	分館数:6 事業数:48	1,129	完了	上野と青山だけにある分館は、市域全体で新しい生涯学習体制を整えるため廃止。								

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
教育集会所	9	人権同和教育の推進	教育集会所事業経費	* 地域ぐるみの同和教育総合実践活動事業 (崇広中学校区ヒューマンフェスタ) 崇広中学校を中心に校区内小学校の教師、保護者を対象に研修会等を開催し、校区内の人権同和教育を推進した。 令和3年度も崇広中学校区地域ぐるみヒューマンフェスタはコロナ禍により中止になりました。(崇広中学校区地域ぐるみの人権・同和教育推進委員会に委託)	(八幡) 開催中止	(八幡) 開催回数:1回 参加者数:2,000人	10	充実	崇広中学校校区内小学校の教師、保護者を対象に研修会等を開催し、校区内の人権同和教育を推進した。 当該校区において人権意識を高めることが出来、非常に意義のあるイベントであったため、継続すべきと考える。	【委員】(教育集会所事業全般)中学校区全体を巻き込んだ啓発イベント、懇談会や連絡会議、実践交流会、小中学生の地区学習会、児童生徒青年をつなげたリーダー育成等々、教育集会所が部落差別解消に向けた取組の拠点となっていることを市民に対し積極的に発信してほしい。 【委員】(教育集会所まとめ)差別をなくす仲間づくりの支援とリーダーの育成に今後も努められたい。	○(教育集会所事業全般) 差別をなくす仲間づくりの支援とリーダーの育成に今後も努められたい。  ○中学校区全体を巻き込んだ啓発イベント、懇談会や連絡会議、実践交流会、小中学生の地区学習会、児童生徒青年をつなげたリーダー育成等々、教育集会所が部落差別解消に向けた取組の拠点となっていることを市民に対し積極的に発信されたい。
				* 人権同和教育相談事業 人権同和教育の推進と併せて、保護者からの相談の機会として開設し、対応した。(各集会所では随時対応)	(寺田) 開催回数:15回 参加者数:15人	(寺田) 開催回数:10回 参加者数:10人	-		今後も保護者とのつながり・関係を深め、相談しやすい雰囲気・環境づくりを進めていく。		
				* 中瀬ふれあい夏祭り人権トーク&コンサート * 寺田フィールドワーク * 小中人権同和教育講演会	(寺田) 開催回数:6回 参加者数:471人(人権トーク&コンサートは中止)	(寺田) 開催回数:6回 参加者数:1,200人	450		地域住民の交流を図りながら、人権同和教育並びに人権啓発を推進することができたと考える。今後も、継続して実施していく。		
				* 城東中学校区小学校3・6年生人権学習会 * 城東中学校1年生人権学習会	(寺田) 開催回数:10回 参加者数:478人	(寺田) 開催回数:9回 参加者数500人	-		担当教職員との事前の打ち合わせにより、対象児童・生徒の現状等を的確に把握し、より効果的なものになるよう、内容等も工夫しながら、実施していく。		
				* 寺田教育を考える保護者の会 * 保小中高連絡会 * 中瀬城東保育園・支部・教集三者懇談会 * 中瀬小学校・支部・教集三者懇談会 * 城東中学校・支部・教集三者懇談会	(寺田) 開催回数:25回 参加者数:459人	(寺田) 開催回数:30回 参加者数:400人	-		保護者・地域住民・学校との交流を図りながら、人権同和教育並びに人権啓発を推進することができたと考える。今後も、継続して実施する。		
				* 伊賀地区校区連絡会議	(前川) 開催回数:10回 参加者数:117人	(前川) 開催回数:10回 参加者数:130人	-		児童・生徒の生活や学習に関わる情報を保小中高で共有し、同和教育の充実を図るために継続して実施する。		

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
教育集会所	部落差別をなくす 教育集会所	9	人権同和教育の推進	教育集会所事業経費	* 大山田保育園解放保育懇談会 * 大山田小学校教育懇談会 * 大山田中学校教育懇談会	(奥馬野) 開催回数: 3回 参加者数: 84人	(奥馬野) 開催回数: 3回 参加者数: 95人	-	充実	子どもたちの実態をふまえ、保育園、小中学校で懇談会を実施し、解放保育・人権教育を充実した。	
					* 青山学校同和教育推進委員会	(老川) 開催数: 年9回 延べ参加者数: 90人	(老川) 開催数: 年11回 延べ参加者数: 110人	9		管内の保幼小中の児童生徒の状況把握、校種間・関係機関との連携ができており、今後も必要な取り組みである。	
					* 保小中同和教育実践交流会	老川) 開催数: 年6回 延べ参加者数: 177人	(老川) 開催数: 年5回 延べ参加者数: 100人	6		管内の保幼小中の教職員の人権意識の向上の一助となり、人権教育カリキュラムとして実施するために不可欠である。	
					* 推進委員会 * 実践報告書作成 * 推進委員会だより発行	(老川) 開催数: 年1回 参加者数: 7人 発行: 年1回 発行: 年3回	(老川) 開催数: 年1回 参加者数: 7人 発行: 年1回 発行: 年3回	191		管内地域住民に学校人権同和教育の周知の一助となっており、継続する必要がある。	
			人権教育推進事業	* 生活講座、識字教室 部落差別によって奪われた文字や文化・生活を取り戻すため、文字を中心とした学習活動や差別の不合理さを伝え差別をなくすための啓発活動を共同作品制作を通じて行った。	(八幡)識字教室 開催回数: 41回 参加者数: 169人	(八幡)識字教室 開催回数: 48回 参加者数: 340人	13	部落差別によって学ぶ機会を奪われた文字や文化・生活のため、学習活動や差別の不合理さを伝え差別をなくす啓発活動を共同作品制作を通じて行った。参加者同士が共同作品を製作することでより繋がりのある活動になっているため、継続すべきと考える。			
					(前川) 開催回数: 58回 参加者数: 977人	(前川) 開催回数: 90回 参加者数: 1000人	640	差別の結果による非識字を解消するために識字活動を継続して実施する。			
					(奥馬野) 開催回数: 20回 参加者数: 181人	(奥馬野) 開催回数: 37回 参加者数: 270人	227	部落差別によって奪われた文字や文化・生活を取り戻すため、様々な学習活動や、差別の不合理さを伝え差別をなくすための啓発活動を共同作品制作を通じて行いました。			

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
教育集会所	9	人権同和教育の推進	人権教育推進事業	(前頁)	(老川) ・生活講座 開催数:年19回 延べ参加者数116人 ・識字教室 開催数:年16回 延べ参加者数:88人 ・パソコン教室 開催数:年16回 延べ参加者数:78人	(老川) ・生活講座 開催数:年20回 延べ参加者数110人 ・識字教室 開催数:年20回 延べ参加者数:110人 ・パソコン教室 開催数:年20回 延べ参加者数:110人	31	継続	地区住民の生きがいのある生活につながっている。また、地域の教員の差別の現実と当事者の思いを知る機会となっており、継続する必要がある。		
					(八幡) 開催回数:23回 参加者数:621人	(八幡) 開催回数:32回 参加者数:1,000人	30		差別を許さない仲間づくりを進める中で、人権感覚豊かな子ども達の育成が図れている。		
				* 小学生地区学習会 部落差別をはじめとするあらゆる差別を許さない仲間づくりを進めるために、地域の歴史や人々の生活を学ぶことで誇りに思い、差別を見抜き、なくしていくことのできる学習を行った。	(寺田) 開催回数:27回 参加者数:383人 (寺田教科学習会) 開催回数:26回 参加者数:192人 (寺田小学生春・夏・冬休み子ども教室) 開催回数:25回 参加者数:64人	(寺田) 開催回数:31回 参加者数:600人 (寺田教科学習会) 開催回数:30回 参加者数:140人 (寺田小学生春・夏・冬休み子ども教室) 開催回数:65回 参加者数:600人	68		地域探検などのふれあい活動や体験教室、また中学生、高校生・青年との交流を通して、学力保障とともに、生活体験を増やす活動を実施した。少子化により、地域の児童が減少する中、今後も、差別をなくしていく仲間として団結していくことができるよう、事業を計画、継続して実施していく必要がある。		
				* 小学生地区学習会	(下郡) 開催回数:29回 参加者数:336人	(下郡) 開催回数:40回 参加者数:450人	44		地区学習会児童数は15名で、地区内児童は1名で小学校区内の希望者を募り学習会を開催している。		
					(前川) 開催回数:30回 参加者数:845人	(前川) 開催回数:40回 参加者数:720人	172		部落差別を見抜き、差別をなくす仲間づくりを進める学習を実施する。		



所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)		指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
				令和3年度実績値	令和3年度目標値							
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進	人権教育推進事業	(前頁)	(奥馬野) 開催回数:24回 参加者数:628人 (ライトピア子ども会) 開催回数:6回 参加者数:73人	(奥馬野) 開催回数:30回 参加者数:800人 (ライトピア子ども会) 開催回数:10回 参加者数:120人	(奥馬野) 370 (子ども会) 9	継続	【小学校地区学習会】 地域の人々の暮らしや歴史を学び、差別を許さない確かな認識や豊かな人権感覚を持った仲間づくりを進め、基礎学力をつけ未来を切り開く進路保障の取り組みを進めた。 【ライトピア解放学習会】 事業は奥馬野・中馬野・坂下地域の小学生を対象とし、地域のつながりを深め、夏休み・冬休みには学習会を実施し学力の補充を行った。 なお、児童と保護者が参加できる体験活動については、新型コロナウイルスまん延のため実施できなかった。		
						(八幡)中学生地区学習会 開催回数:28回 参加者数:370人	(八幡)中学生地区学習会 開催回数:36回 参加者数:440人	85		将来の展望を持ち、仲間とともに自己実現を図る学習会を開催した。中学生の学力向上と人権意識の向上や高校生等の差別を許さない仲間づくりに寄与しているため、継続すべきと考える。		
					*中学生地区学習会、高校生友の会	(下郡) 開催回数:16回 参加者数:105人 (下郡高校生友の会) 開催回数:10回 参加者数:0人	(下郡) 開催回数:30回 参加者数:330人 (下郡高校生友の会) 開催回数:12回 参加者数:36人	25		・地区学習会では地区内対象者の減少する中、他地区の生徒も含めて実施することで、新たな交流と学習が備わった。 ・友の会では、高校生・社会人も少なく、案内書を出すものの参加の向上に至っていないが、根気よくこれからも対象者への案内も続けていく。		

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進	人権教育推進事業	* 中学生地区学習会、高校生の友の会	(寺田) 開催回数: 30回 参加者数: 336人 (寺田教科学習会) 開催回数: 40回 参加者数: 351人 (寺田高校生・青年友の会) 開催回数: 13回 参加者数: 60人 (寺田小中高合同地区学習会) 開催回数: 4回 参加者数: 171人	(寺田) 開催回数: 35回 参加者数: 450人 (寺田教科学習会) 開催回数: 50回 参加者数: 310人 (寺田高校生友の会) 開催回数: 15回 参加者数: 70人 (寺田小中高合同地区学習会) 開催回数: 2回 参加者数: 100人	255	継続	児童・生徒・青年の縦のつながりを深めることを意識して、事業を実施した。少子高齢化により、地域の児童・生徒・青年が減少する中、今後、差別をなくしていく仲間として団結し、活動のリーダーとなっていくことができるよう、事業を計画、継続して実施していく必要がある。	
						(前川・中友) 開催回数: 29回 参加者数: 807人 (前川・高友) 開催回数: 48回 参加者数: 355人 (前川・わかもの&スクラム) 開催回数: 1回 参加者数: 17人	(前川) 開催回数: 90回 参加者数: 1,000人 (前川・わかもの&スクラム) 開催回数: 3回 参加者数: 80人	401		部落差別の解消を目指し、行動に移せる生徒を育てる学習を実施する。また、差別解消に取り組んでいる青年層と次の世代(中・高)との交流を深める。	
						(奥馬野) 開催回数: 26回 参加者数: 458人 (奥馬野中高生学習会) 開催回数: 5回 参加者数: 41人	(奥馬野) 開催回数: 30回 参加者数: 600人 (奥馬野中高生学習会) 開催回数: 8回 参加者数: 60人	(奥馬野) 266 (中高生) 5		【中学校地区学習会】 * 地域の人々の暮らしや歴史を学び、差別を許さない確かな認識や豊かな人権感覚を持った仲間づくりを進め、基礎学力をつけ未来を切り開く進路保障の取り組みを進めました。 【中学生高校生学習会】 * 夏休み・冬休み・春休みを利用して、確かな学力を身につけ進路を保障していくために、課題や復習問題に取り組む機会を提供しました。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)		指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
				令和3年度実績値	令和3年度目標値							
教育集会所	部落差別をなくす	9 人権同和教育の推進	人権教育推進事業	* 人権教育講演会、学習会 部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃に向けて、地域における人権同和教育をすすめるために、様々な機会をとらえて人権同和教育問題に対する講演会や学習会を開催している。 一部の講座等については、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として中止した。	(八幡) 開催中止	(八幡) 開催回数: 2回 参加者数: 120人	-	継続	奨学金の意義を奨学生と保護者、学校関係者に対して深く周知することができるため、継続すべきと考える。	【委員】(教育集会所事業全般) コロナ禍で開催できなかつたり規模を縮小した事業が多々あったが、部落差別の完全解消へ向けた取組はぜひとも維持、継続していただきたい。	○(教育集会所事業全般) コロナ禍で開催できなかつたり規模を縮小した事業が多々あったが、部落差別の完全解消へ向けた取組はぜひとも維持、継続されたい。	
					(下郡人権と平和学習会) 開催回数:【展示会】1回 参加者数: 81人 (依那古草の根会議) 開催回数: 1回 参加者数: 50人 (上野南中学校区学習会) 開催回数: 5回 参加者数: 78人 (高齢者人権教養講座) 開催回数: 0回 参加者数: 0人	(下郡人権と平和学習会) 開催回数: 2回 参加者数: 130人 (依那古草の根会議) 開催回数: 1回 参加者数: 100人 (上野南中学校区学習会) 開催回数: 1回 参加者数: 70人 (高齢者人権教養講座) 開催回数: 1回 参加者数: 60人	-		・人権と平和学習会については、他の団体と連携して実施できたことは、よい啓発に結びついている。今後においても効果的な内容の講演会・学習会を提供し、人権教育推進事業として取り組みを図る。 ・草の根会議では、コロナ禍の中で役員に限定し講演会を開催した。 ・上野南中学校区学習会では、推進委員会・実践交流会を実施し、他の事業についてはコロナ禍のため中止となった。 ・高齢者人権教養講座は、コロナ禍で中止となった。			
					(前川・特別解放講座) 開催回数: 0回 参加者数: 0人	(前川) 開催回数: 1回(特別解放講座) 参加者数: 100人	-		部落差別をなくす活動を広く伝える場として継続して実施する。			
					(老川) 開催数: 年1回 延べ参加者数: 24人	(老川) 開催数: 年3回 延べ参加者数: 200人	30		人権同和教育推進の一助となっており、継続の必要がある。			

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
文化財課	歴史や文化遺産を守り、未来へと引き継ぐ	1 文化財の調査・指定及び活用の推進	文化財保存経費	* 文化財保護審議会(2回)、市指定有形文化財旧上野市庁舎保存活用計画策定検討委員会(2回)を開催し、文化財指定の審議や旧上野市庁舎の保存・活用の検討を行った。 * 指定文化財の調査・管理を実施した。(76件) * 指定文化財の説明看板を1カ所(甲野極楽寺)設置した。 * 文化財年報を発行(300冊)するとともに、書籍『伊賀市の文化財』を販売し、文化財の啓発に努めた。	文化財調査 76件	文化財調査 50件	1,101	継続	県内最多の指定文化財が所在する当市では、各種文化財の適切な保護・保存と、周知に努めている。	【委員】(文化財共通まとめ)市民に文化財や歴史に親しむイベント等を積極的に取り組まれたい。	○(文化財共通) 市民に文化財や歴史に親しむイベント等を積極的に取り組まれたい。
			文化財施設維持管理	* 直営1館、指定管理4館の文化財施設を適切に維持管理し、入館者を増やすよう啓発した。	入館者数 13.67人/日	入館者数 10.00人/日	24,951	継続	文化財施設の周知に努めるとともに、コロナ禍の中、指定管理者である伊賀市文化都市協会と連携し、入館者を増やすよう努めた。	【委員】今後とも入館者数の増加に向け、広報・企画等の努力を期待したい。	○今後とも入館者数の増加に向け、広報・企画等の努力を期待したい。
			歴史的風致維持向上計画進捗管理事業	* 伊賀市歴史的風致維持向上計画に基づき、法定協議会(2回)、庁内会議(1回)を開き、歴史まちづくりを進めた。 * 重点区域内において、歴史的風致維持向上形成建造物の指定を推進した。	計画進捗率 31%	計画進捗率 35%	358	継続	重点区域における個別事業について、庁内関係各課と連携し、進捗を図ることができた。		
			文化財保存活用地域計画作成事業	* 庁内検討会議(2回)及び協議会(2回)の開催、市民アンケートの実施により、文化財保存活用地域計画作成事業を推進した。	事業進捗 40%	事業進捗 35%	1,146	継続	庁内会議・協議会を開催して意見を聴取し、計画作成に向けて進捗した。		
	2・3 有形文化財の保護・保存 民俗文化財の保護・保存	文化財保存事業	* 国重要無形民俗文化財 上野天神祭のダンジリ行事の民俗文化財伝承・活用等事業及び同行事の保存管理事業を指導・助言・監督した。	事業進捗率 100%	事業進捗率 100%	2,489	継続	事業主体である上野文化美術保存会と連携し、適切に修理事業を進めた。			
			* 国重要文化財高倉神社本殿・境内社春日社本殿・境内社八幡社本殿の防災・耐震対策重点強化(防災施設等)事業を助言・指導・監督した。	工事進捗率 100%	工事進捗率 100%	1,143	完了	事業主体である高倉神社と連携し、適切に防災施設整備事業を進めた。			
			* 県指定文化財春日神社拝殿の解体修理事業(組立工事・補修工事)を助言・指導・監督した。	工事進捗率 86%	工事進捗率 86%	8,980	継続	事業主体である春日神社と連携し、適切に修理事業を進めた。			

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
文化財課	歴史や文化遺産を守り、未来へと引き継ぐ	4	国史跡伊賀国庁跡保存整備事業	* 史跡公園としての整備を図るため、史跡伊賀国庁跡保存整備事業指導委員会(1回)を開催し、指導・助言を得ながら保存整備工事を実施した。	史跡整備進捗率:50%	史跡整備進捗率:50%	12,554	継続	環境整備及び整備工事を予定通り実施できた。		
			国史跡上野城高石垣計測事業	* 国史跡上野城の高石垣で定点測量を実施し、高さや位置の変化を観察した。	測量実施地点数 6点		251	継続	石垣崩落の危険性を把握できるよう努めた。	【委員】上野城高石垣の現状把握の取り組みを評価する。形状に変化が見られたときにどのように対処するのか、今のうちに工程表を作成して必要な時に迅速な対応ができるよう準備していただきたい。	○上野城高石垣の現状把握の取り組みを評価する。形状に変化が見られたときにどのように対処するのか、今のうちに工程表を作成して必要な時に迅速な対応ができるよう準備されたい。
			文化財保存経費	* 伊賀国庁跡、伊賀国分寺跡、長楽山廃寺跡、御墓山古墳の草刈り及び障害木の伐採を行い環境整備に努めた。 * 県指定天然記念物ノハナショウブ群落管理業務を実施した。 * 国特別天然記念物オオサンショウウオの保護に努めた。	進捗率100%		3,198	継続	国史跡の環境整備に努め、天然記念物の保護活動を適宜行った。	【委員】オオサンショウウオのニュースは継続して積極的に市民に発信されたい。 【委員】生息場所を特定できない形でオオサンショウウオの観察件数や遺伝子検査結果などの情報を市民に提供することは、保護の機運醸成に有効と思われる。情報提供の方法を検討されたい。	○生息場所を特定できない形でオオサンショウウオの観察件数や遺伝子検査結果などの情報を市民に提供することは、保護の機運醸成に有効と思われる。情報提供の方法を検討されたい。
	5	埋蔵文化財の保護と活用	埋蔵文化財発掘調査経費	* 西明寺地内の斎苑整備事業に伴い、西明寺遺跡の発掘調査を実施した。 * 対象となる民間・公共の開発事業に対し協議を進め、適宜試掘調査・立会調査を行った。	発掘調査件数1件 試掘調査件数6件 立会調査件数16件	発掘調査件数1件 試掘調査件数5件 立会調査件数5件	0	継続	開発事業に対し、埋蔵文化財包蔵地の照会を行い、遺跡地に該当する場合、調査を進め文化財保護に努めた。		
	6	文化財や歴史に関する諸資料の収集・保存及び活用	歴史資料保存管理経費	* 市民からの依頼で歴史資料を5件調査、収集し、目録を9件作成した。 * 『広報いが市』に「伊賀の歴史余話」(6回)を掲載した。 * 上野図書館・文化交流課とともにデジタルミュージアム「秘蔵の国 伊賀」を制作し、公開記念講演会(1回)を開催した。	目録作成9件	目録作成10件	487	継続	市民から不時依頼のある歴史資料の調査を適宜行った。また、伊賀の歴史的魅力を発信できるよう努めた。	【委員】断捨離や終活ブームを背景に、古文書・古い資料等の持込み増加が予想されるが、貴重な物とそうでない物を見分け、重要な資料を見逃さず、デジタル化等による保存の努力を期待したい。 【委員】デジタルミュージアムの公開を評価する。新しいミュージアムのあり方の一つとして継続的に充実させていくことを望む。	○断捨離や終活ブームを背景に、古文書・古い資料等の持込み増加が予想されるが、貴重な物とそうでない物を見分け、重要な資料を見逃さず、デジタル化等による保存の努力を期待したい。 ○デジタルミュージアムの公開を評価する。新しいミュージアムのあり方の一つとして継続的に充実させていくことを望む。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
図書館	1	市民の学習活動の支援	図書館管理経費 図書室管理運営経費 ・図書館の利用促進	*新型コロナウイルス感染症拡大防止のために臨時休館を行った時期もあったが、感染症対策を実施して開館し、市民の生涯学習の場として、蔵書や資料の充実、提供に努めた。 *「夜のとしよかん探検」などを通じて、図書館に興味を持ってもらう取り組みを行った。 * 忍者月間には「忍者図書館」と題し、忍者関連図書の特集コーナーの設置や企画展示を行ったり、岸宏子氏生誕100周年記念事業と連携した岸宏子作品紹介コーナーを設置するなど庁内各課との連携により利用促進に繋げた。	貸出利用者数 計73,717人	貸出利用者数 計79,500人	102,353	充実	新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数に減少傾向が見られた。また、青山図書室においては移転に伴い約2か月間の休館を行った。 生涯学習の場としての役割を果たすため、引き続き利用促進を図るとともに、将来を見据えたサービスの提供が必要である。		
					上野:62,301人	上野:67,000人	93,696				
					いがまち:3,190人	いがまち:2,800人	2,521				
					島ヶ原:387人	島ヶ原:400人	293				
					阿山:2,113人	阿山:2,500人	2,545				
					大山田:2,721人	大山田:2,800人	2,596				
					青山:3,005人	青山:4,000人	702				
	2	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	・図書の貸出	*市広報紙や図書館だより、図書室広報誌等で、新着図書やおすすめ図書の紹介、催し物等開催の情報発信を行い、利用促進に繋げた。 * 図書館・図書室間の配送サービスや三重県立図書館等との相互貸借により利便の向上を行った。 * 地域の特性を活かした図書館(室)運営を行い、身近な図書室ならではの読書活動推進に取り組んだ。 * 校舎長会などを通じて団体貸出のPRを行うとともに、市内小中学校へのセット文庫の定期配送貸出を行い、学校図書館との連携・支援を行った。 * 上野点字図書館と連携し、活字での読書が困難な方への録音図書の取次貸出や障がいがある方への郵送貸出に取り組んだ。	貸出冊数計 282,722冊 (うち児童書 127,006冊)	貸出冊数計 303,800冊 (うち児童書 129,100冊)		充実	新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数に減少傾向が見られた。 配送サービスや相互貸借の利用方法について更なる周知が必要である。 セット文庫の配送だけでなく団体貸出の利用促進を進め、学校図書館支援の充実を図る必要がある。		
					上野:240,835冊 (うち児童書:102,282冊)	上野:261,000冊 (うち児童書107,000冊)					
					いがまち:11,746冊 (うち児童書:7,096冊)	いがまち:10,000冊 (うち児童書5,600冊)					
					島ヶ原:716冊 (うち児童書:298冊)	島ヶ原:800冊 (うち児童書400冊)					
					阿山:8,503冊 (うち児童書:5,146冊)	阿山:10,000冊 (うち児童書5,500冊)					
					大山田:10,052冊 (うち児童書:6,214冊)	大山田:11,000冊 (うち児童書5,600冊)					
					青山:10,870冊 (うち児童書:5,970冊)	青山:11,000冊 (うち児童書5,000冊)					
2	利用者サービスの充実	・図書配送サービス	*連携した図書館情報システムの運用や週3回の配送サービスの実施により、利便性の向上に繋げた。 * 上野図書館の準新刊など蔵書の一部を図書室に配置し、利用促進に取り組んだ。 * 市内小中学校へのセット文庫の定期配送貸出を行い、児童生徒の図書利用促進に取り組んだ。	配送書籍冊数計 20,941冊	配送書籍冊数計 22,400冊		充実	配送サービス等を継続する必要がある。 上野図書館の準新刊をすべての図書室に配置し、図書館全体の利用促進を行う必要がある。			
				上野:8,142冊	上野:8,000冊						
				いがまち:3,765冊	いがまち:4,000冊						
				島ヶ原:591冊	島ヶ原:800冊						
				阿山:2,678冊	阿山:3,100冊						
				大山田:3,119冊	大山田:4,000冊						
				青山:2,646冊	青山:2,500冊						

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和3年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	評価委員の意見(まとめ案)
					令和3年度実績値	令和3年度目標値					
図書館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	3	読書活動の支援と充実	・読み聞かせ会等の実施  *各ボランティア団体の協力による絵本や紙芝居の読み聞かせ会の実施により、子どもが本に親しむ機会づくりに繋がった。 *小学校でのブックトークや読み聞かせ会の実施により児童の図書利用促進を行った。 *多言語での読み聞かせ会を開催し、多様性に触れたり理解する機会づくりに繋がった。	開催数計 132回	開催数計 211回		充実	新型コロナウイルス感染症拡大防止により一部の事業を中止する結果となったが、感染症対策を行いながら事業を実施する。 読み聞かせ会のボランティア支援として、引き続きボランティア研修の開催を行う必要がある。	【委員】子どもたちが身近に本に親しむ機会の充実のためには、「読み聞かせ団体」の存在は大きなものがあると感じます。育成・支援をお願いしたい。 【委員】新型コロナウイルスの感染対策等を取りながらの読み聞かせボランティア活動は評価したい。今後もボランティア団体へ図書館側のサポート等を益々強化してほしい。	○子どもたちが身近に本に親しむ機会の充実のためには、「読み聞かせ団体」の存在は大きく、新型コロナウイルスの感染対策等を取りながらの読み聞かせボランティア活動は評価したい。今後もボランティア団体の育成、支援をお願いしたい。
					上野:41回	上野:60回					
					いがまち:22回	いがまち:25回					
					島ヶ原:9回	島ヶ原:21回					
					阿山:10回	阿山:24回					
					大山田:30回	大山田:57回					
					青山:20回	青山:24回					
		読書活動の支援と充実	・特集コーナーの設置  *「読書週間」や「差別をなくす強調月間」などの取り組み期間や時事情報などに関連する特集コーナーを設置し、利用促進を繋げた。 *上野図書館が所蔵する貴重資料の企画展示を行い、郷土史の周知に努めた。	特集実施数計 133回	特集実施数計 125回		充実	市民の読書への関心を高めるため、各種週間や時事情報、ニーズに添った特集コーナーの設置を行う必要がある。	【委員】市民が図書館に行っていた(関心を持つ)ためには、企画展示が重要に感じます。一層の充実を望みます。 【委員】時機を得た特集コーナーの設置は所蔵資料の活用や図書館の利用促進にも繋がり、その努力を評価する。今後とも図書館が市民の集う場所であり、まちづくりの拠点の一つとして機能することを目指していただきたい。	○時機を得た特集コーナーの設置、企画展示は所蔵資料の活用や図書館の利用促進にも繋がり、その努力を評価する。一層の充実を図り、今後とも図書館が市民の集う場所であり、まちづくりの拠点の一つとして機能することを目指す。	
				上野:51回	上野:50回						
				いがまち:12回	いがまち:15回						
				島ヶ原:2回	島ヶ原:13回						
				阿山:30回	阿山:12回						
				大山田:29回	大山田:20回						
		青山:9回	青山:15回								
		読書感想文コンクールによる読書活動啓発事業	*第17回読書感想文コンクールを実施し、読書活動の推進を行った。	応募数:245点	応募数:330点		充実	読書で得た様々な想いを表現する取り組みは大切であり、継続実施することで、本に親しむ機会を作る必要がある。	【委員】学力向上にかかわる課題で、読書量が少ないとある。読書感想文をきっかけに、学校教育と連携して課題解決につなげてほしい。その際は、「読書で得た様々な想い」を表現する方法のアドバイスもお願いしたい。 【委員】読書感想文コンクールは重要に思います。継続して推進されたい。 【委員】読書活動啓発事業のさまざまな取り組みがある中で、低学年向けの「読書感想文の書き方等」の講座又はワークショップ等を開催して、読書や文章を書くことへの楽しさと、意欲向上できるような啓発事業を望む。	○読書感想文コンクールは重要であり、継続して推進されたい。  ○学力向上に関わる課題として、読書量の少なさがある。読書感想文をきっかけに、学校教育課と連携して課題解決につなげてほしい。その際は、「読書で得た様々な想い」を表現する方法のアドバイスもされたい。  ○読書活動啓発事業のさまざまな取り組みがある中で、低学年向けの「読書感想文の書き方等」の講座又はワークショップ等を開催して、読書や文章を書くことへの楽しさと、意欲向上できるような啓発事業を望む。	
		4	資料の収集と活用の推進	・資料の収集と活用  *市民からのリクエストや司書が選書した図書を購入し、資料の充実にも努めた。 *上野図書館が所蔵する貴重資料の一部をデジタル化し、デジタルアーカイブ「デジタルミュージアム 秘蔵の国伊賀」によりインターネット上での公開や、古文書に関するレファレンス(調べもの相談)に取り組むことで資料の活用を行った。	図書購入冊数 計6,181冊	図書購入冊数 計5,420冊		充実	リクエストや時事情報を把握し、資料収集を効果的に行う必要がある。 デジタルアーカイブは今後も閲覧できるよう公開を継続する必要がある。	【委員】今話題の本、今人気の本を手にとることから読書活動がスタートする。活字離れ克服のため、旬の本の購入冊数を増やすことも検討していただきたい。 【委員】レファレンスサービスの充実は、重要に感じます。一層のスキルアップを。「デジタルアーカイブ」の啓発を	○今話題の本、今人気の本を手にとることから読書活動がスタートする。活字離れ克服のため、旬の本の購入冊数を増やすことも検討されたい。  ○レファレンスサービスの充実は重要であり、一層スキルアップされたい。「デジタルアーカイブ」の啓発をされたい。
					上野:5,762冊	上野:5,000冊					
いがまち:108冊	いがまち:100冊										
島ヶ原:17冊	島ヶ原:20冊										
阿山:105冊	阿山:100冊										
大山田:116冊	大山田:100冊										
青山:73冊	青山:100冊										